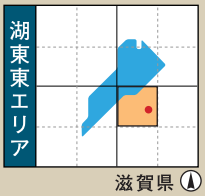
史跡
県指定

勝堂古墳群（しょうどうこふんぐん）

湖東町勝堂　昭和58年3月28日指定



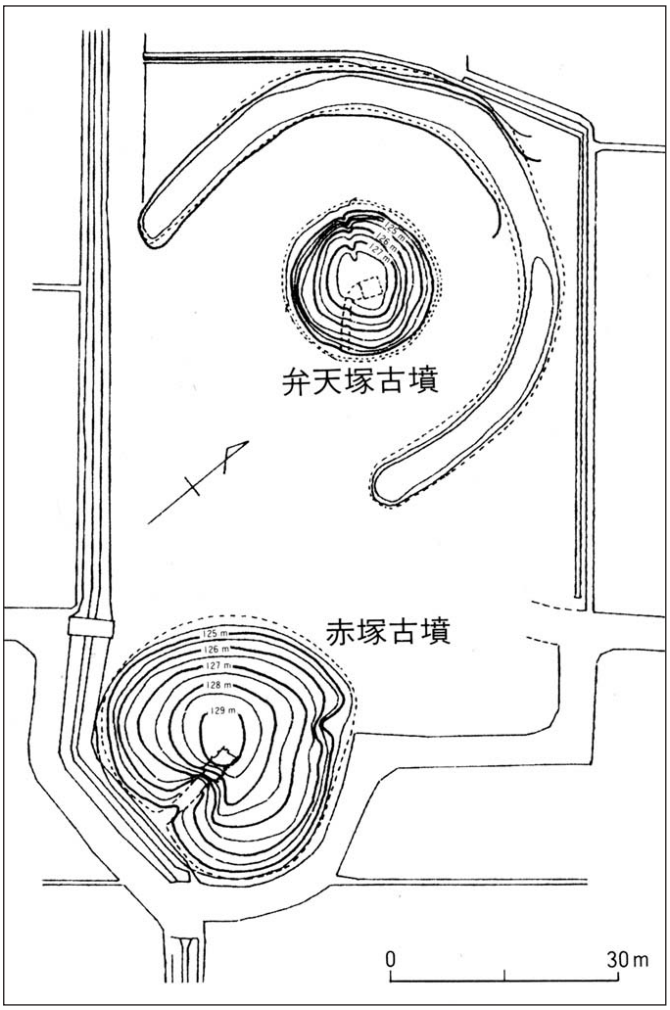
湖東地域は渡来人達の活躍などもあり、古くから開発の進んでいた地域で、その跡を物語る遺跡がたくさん残されています（湖東地域の群集墳：学習シートNo.058）。湖東町にある勝堂古墳群もそのうちの一つで、現在8基の古墳が残されています。うち、赤塚古墳と弁天塚古墳が県の史跡となっています。

当時のできごと	
531年	継体天皇没し 欽明天皇即位
552年	蘇我氏と物部氏の間で 崇仏論争
571年	欽明天皇没

勝堂古墳群について

鈴鹿山系に源を発する愛知川は、流域に肥沃な穀倉地帯を形成しています。しかし、愛知川を利用した農地の開発が本格化するのは、古墳時代に入ってからのことであり、優れた土木技術とともに大陸からやってきた渡来人達が、大きな役割を果たしました。このような歴史の流れは、湖東地域に多数残されていた古墳や、古代寺院の遺跡に見ることができます。

勝堂古墳群は、赤塚古墳、弁天塚古墳、おから山古墳、行者塚古墳、北浦古墳を始めとする8基の古墳により構成されています。しかし、『淡海記』、『新開略記』などの江戸時代の文献によれば、もとは合計48基の古墳により構成されていたことが記録されており、近代以降、多くの古墳が開発により失われてきたことがわかります。これも、湖東地域の土地が持っている高い経済性の表れであり、歴史的な必然であるのかも知れません。しかし、現在残されている古墳は、湖東地域の歴史を物語る資産として、永く保存していく必要があります。



弁天塚古墳、赤塚古墳測量図



赤塚古墳石室

赤塚古墳と弁天塚古墳

滋賀県の史跡に指定されているのは、勝堂古墳群の中では最も規模の大きい、赤塚古墳と弁天塚古墳の2基の古墳です。両者は隣接しており、うち赤塚古墳は、直径約32m、高さ約5.2mの円墳で、周濠を伴います。主体部は横穴式石室で、羨道の長さは2.4m以上、幅0.9m。玄室の長さは4.0m、幅2.0m、高さ1.6m以上の規模があります。床面は土砂が堆積しており確認することができません。

弁天塚古墳は赤塚古墳の北西約40mにある直径約20.0m、高さ約4.3mの規模の円墳で、周濠が巡ります。内部主体は未調査のため不明です。

これらの古墳の築造時期については、発掘調査が行われていないため正確なことはわかりませんが、古墳の形態、石室の構造から判断すると6世紀後半頃のものと考えられます。また、これらの古墳は古墳群でも最も標高の高い位置にあり、規模も大きく、隣接してあることから、勝堂古墳群でも中核的な位置を占め、かつ、湖東地域の開発においても、重要な役割を果たした首長のものと考えることができそうです。



弁天塚古墳



弁天塚古墳と赤塚古墳



赤塚古墳

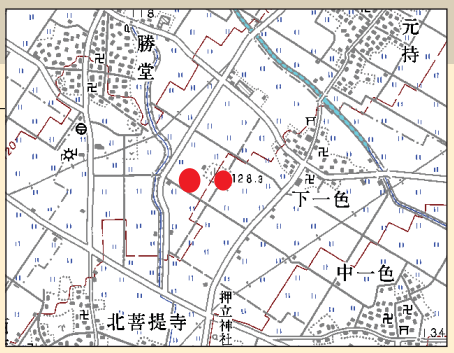
関連する文化財

湖東地域の群集墳（上蚊野古墳群・平柳古墳群）	学習シートNo.058
八之塚古墳群（愛東町）	愛知川の段丘上に造られた古墳群
小八木廃寺（湖東町）	奈良時代の寺院跡。舌を出した鬼の文様の鬼板が有名

もっと深く知りたい

湖東町教育委員会　☎0749-45-3711　愛知郡湖東町池庄505

勝堂古墳群へのアクセス　名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月